

クラウド型最新式デジタコ、 動態管理システム 来年導入 サービスレベルさらに向上図る

ます。大掛かりな投資を行いましたが、今期は利益面での改善が進んでいるので増収増益になる見込みです。

4大プロジェクトを一つ一つ見ていくと、一時的に苦勞したこともありましたが、1年経ってすべて良い方向に進んでいます。直近案件の一宮物流センターについては11月に冷凍倉庫の稼働が控えています。これを終えるとセンター全体がフル稼働となります。ただ、来年9、10月に2000坪(6600坪)ほど駐車場も拡大するので、本今の工事完了はその時です。増床もあるので、来年まで投資は続きます。

—投資で各営業所が改善し始めています。ここからは何を改善していきますか。

加藤 いよいよ来年、最新式のデジタコ(デジタルタコグラフ)の導入のために1億〜2億円(注)の投資を行います。ハードで補える部分はあるので、それを補いたいと考えています。新たに導入するクラウド型のデジタコは、例えば、事故を起こしたときにドライブレコーダーの映像がすぐに事務所を確認できるメリットがあります。現状だとメモリーカードをレコーダーから取り出して確認するようになるとなりますが、今度は一元管理ができてしまうのです。

それから、当社のトラック全265台に動態管理システムを

入れます。現在約100台にシステムが入っているため、その便利さが分かりますが、何号車がどこを走っているかというのが画面上に出てくるのでより一層細やかな配車も可能です。来年はこれらのシステムの充実に取組み、サービスレベルの向上を図っていきます。

—貴社は食品物流を主戦場にしてはいますが、その食品物流に求められることは何でしょうか。

加藤 センターを含め、全温度帯物流への波が押し寄せています。今まで温度帯別で行ってきたことが、関東も中部も全温度帯物流に切り替わってきています。これに対応した物流センターの建設、車両の導入を積極的に行っていかなくてはなりません。物流全体がさらに効率化されています。当社は加工食品の物流からスタートしたので、在庫管理にしても在庫型が得意なのですが、そこで培ったノウハウをチルドやフローズンにも生かしていきたいと思えます。加えて、食品と衣料のようにカテゴリーの垣根を越えた物流も求められています。

物流センターの集約化も当然進んでいきます。小売業さんの閉店のスピードも上がっています。これは当社にとっても死活問題ですが、とにかく今までのように右肩上がりを前提とした物流ではなく、ある程度淘汰された中でのかじ取りを考えていかなくてはなりません。

—貴社の状況について教えてください。

加藤 前期(16年3月期)は拡大路線といえますが、多くの営業所を立ち上げたので、10%近い増収となりました。やはり、4大プロジェクト(某GMSの静岡物流センター、別の某GMSの大阪の全温度センターの立ち上げ、関東の食品スーパーの物流センター移転、愛知県一宮市の某GMSの全温度帯センターの立ち上げ)が核となってい